

新モニタリング項目評価シート 事務局案

別紙2

平成29年度 第3期海域管理計画モニタリング個別評価シート

〈知床世界自然遺産地域科学委員会 海域ワーキンググループ〉

1. 評価項目

③イカ類・魚類

2. 評価項目の位置付け

大分類	①海洋環境		②浅海・生物相	③イカ類・魚類	④鯨類・鰭脚類	⑤鳥類	⑥地域社会
中分類 (各種構成要素)	海洋環境と 低次生産	沿岸環境	海洋環境と 低次生産	魚介類	海棲哺乳類	鳥類	地域社会
小分類 (指標種)	・水温・ 水質・ク ロロフィル a、プラン クトンなど ・海水	・有害 物質	・生物相	・スルメイカ ・サケ類 ・スケトウダラ その他の魚類	・シャチ ・ゴマフアザラシ ・トド	・海鳥類 ・海ワシ類	・利用の適正化 (文化振興、総合 的評価) ・持続的利用 (産 業経済、地域社 会、生態系サービ ス)

3. 評価項目に関わる調査・モニタリング表

モニタリング項目	主な内容	調査名称等
「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握	漁獲量を調査 (スルメイカ・サケ類・スケトウダラ・その他の魚類)	北海道水産現勢 (北海道)
資源状態の把握と評価 (T A C 設定に係る調査)	資源水準・動向 (スルメイカ・スケトウダラ)	平成29年度我が国周辺水域の漁業資源評価 (水産庁)
河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所及び産卵床数モニタリング	ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川にてサケ類の遡上量を推定するため、遡上中の親魚数、産卵床数を調査	H29年度は実施
河川工作物改良効果把握調査	遡上効果の把握	2015年度 (平成27年度) 知床世界自然遺産地域におけるサケ科魚類遡上状況調査報告書 (北海道)
スケトウダラ産卵量調査	スケトウダラ卵の分布量調査	根室海峡卵分布調査 (羅臼漁業協同組合)

4. 保護管理等の考え方

知床周辺海域のモニタリングや各種調査、情報収集に努め、地域の漁業者・漁業団体による自主的な取組を踏まえながら漁業法や水産資源保護法等の関係法令に基づいて、イカ類・魚類の適切な資源管理と持続的な利用を推進する。

5. 評価

(1) 現状

<p>(記載例)</p> <p><スルメイカ></p> <p><サケ類></p> <p><スケトウダラ></p> <p><その他魚類></p>

(2) 主たる資料の評価

評価	H29 (2017)	<p>事務局がモニタリング実施主体である資料の評価について記載。評価シート③「イカ類・魚類」では、漁獲量調査（北海道水産現勢）の評価を記載する。そ総合的に評価できることがあればそれについても記載する。</p> <p>(記載例)</p> <p><スルメイカの漁獲量></p> <p><サケ類の漁獲量></p> <p>○サケ類の資源評価は過去20年間の沿岸漁獲量を参考に、資源水準を高位 (>+10%)、中位 (±10%)、低位 (<-10%) として評価した。</p> <p>○サケは、20年間の平均漁獲量を基準として最近5ヶ年(2012-2016年)の資源水準を評価した結果、前年まで中位水準を維持していた斜里側でも低位水準(-16.1%)となった。羅臼側での低位水準(-40.8%)の傾向も続いており、全体でも低位水準(-23.1%)となっている。</p> <p>○2年の生活史を持つカラフトマスは、偶数年級群と奇数年級群により資源水準が異なる。そのため、偶数年級群と奇数年級群に分けて資源評価を行った。</p> <p>○高位水準で推移してきたカラフトマス奇数年級群(2011-2013-2015年)も2011年以降急減して低位水準(-53.4%)となり、両半島側でその傾向は変わらない(斜里側-55.1%、羅臼側-34.5%)。</p> <p>○カラフトマス偶数年級群(2012-2014-2016年)の資源水準は低い水準が続き (-54.5%)、その傾向は両半島側で変わらない(斜里側-56.0%、羅臼側-39.3%)。ただし、2016年の漁獲量は増加し、2010年以降では最高となった。</p> <p>○2017年の漁獲量の速報値では、サケは斜里側では前年の72%、羅臼側では前年の32%となっており、近年にない不漁となった。カラフトマスは、2016年は2014年の約7倍に増加したが、2017年は2015年の62%に減少し、奇数年と偶数年が逆転した。</p> <p><スケトウダラの漁獲量></p>
----	---------------	--

(3) 補助資料の評価

評価	H29 (2017)	<p>事務局以外の機関がモニタリング実施主体である調査の評価を記載。</p> <p>(記載例)</p> <p><スルメイカの資源水準・動向></p> <p><スケトウダラの資源水準・動向></p> <p><ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川にてサケ類の遡上量を推定するため、遡上中の親魚数、産卵床数を調査></p> <p><遡上効果の把握></p> <p><スケトウダラ産卵量調査></p>
----	---------------	--

(4) 今後の方針

今後の方針	H29 (2017)	(記載例) <スルメイカ> <サケ類> <スケトウダラ> <その他魚類>
-------	---------------	--

(5) 特記事項

その年に起こった特筆すべき事項について記載。
(記載例)
第41回世界遺産委員会決議に対する保全状況報告を世界遺産委員会に提出した。